

一九七七年二月一日第三種郵便物認可

発行所 社会通信社

発行人 滝野 忠

e-mail: shakaisushin@nifty.com

東京都渋谷区本町六丁目二八の二コーポル幢ケ谷九〇四

電話(03)337714649

FAX(03)329915367

振替 〇〇一〇〇一九一五八四三二

労金 中央労金本店 No.1154163

購読料 月額700円 6カ月前納制

### へもくじ

#### ■巻頭言

私の読書

「マル・エン全集」書簡集を読む

滝野 忠……2

一〇四七名問題と安全を一つに……………3

「ノーモアJR尼崎事故」で集会

一年で十二人中一人がやめていく……………4

「ナイチンゲール精神の看護師がなぜ」

職場ですすむ仕事密度・……………5

精神的緊張の強化、強まる民営化の流れ……………5

労働運動再生への課題……………7

「六春闘 支払い能力論浸透」

原告団の闘いと今後の展開……………11

「国鉄闘争の現状」

読者からのおたより……………13

# 旬刊 社会通信

NO. 968

二〇〇六年六月一日号

二〇〇六年六月一日発行  
(毎月一日・二日・三日三回発行)

## 私の読書

『マル・エン全集』書簡集を読む

東京では巨大書店が林立しています。東京駅八重洲南口のブックセンターはその先駆けです。開店当時、活気にあふれておりました。今はかつての地方の「銀座通り」の状況下にあるやに思われます。華やかさ、活気が失われちゃったんですね。私が求める書籍はベスト・セラーとは無縁です。

五、六年前まで一冊数千円の学術書を数多く買い求めておりました。それら高価な本は、著者の研究・探求心にもかかわらず現代を映す鏡とはなっておりません。

現在、新刊を買い求めることはごくごくまれになりました。もっぱら古本屋めぐりです。これまで高価で買えなかった古書が本当に安く売られています。

読む本はしたがって古典となりました。三、四年前にはレーニン全集をすべてメモりました。レーニンから教えられマル・エン全集に熱中したのは一、二年前です。この時、マルクス・エンゲルスの書簡は放り出してしまいました。

読む気になったのは、今年の正月『資本論に関する手紙』（岡崎次郎訳、法政大学出版会、一九六七年一月刊）に目を通したことです。これが面白いんです。科学的な社会主義についての基礎、応用、そして考えなければならぬことが、じつに泥くさく、具体的に現在社会のあり方とともに平易にしかも根本から記されているんです。この書はマルクス・エンゲルスの手紙のごく一部でしかありません。

大月書店からは『資本論』三巻、『剰余価値学説史』とともに、『マルクス・エンゲルス書簡集』（全三巻）が文庫本で大昔に出版されています。大月書店の書簡集に目を通しました。一九世紀半ばから後半にかけての社会主義者、学者・知識人、活動家から党、労働運動の活動、『資本論』、唯物史観、社会主義の根本について山ほどの質問が寄せられ、それについてマルクス・エンゲルスが答えているんです。まさに、科学的な社会主義を学ぶ宝庫ということに初めて気付かされました。そして今、『マル・エン全集』の書簡集を読み始めたというわけです。

書簡集は第二七巻から三九巻までの全一三巻です。始めから読むのではなく最終巻の三九巻から読み始めています。マルクスの死は一八八二年、エンゲルスは一八九五年です。最終巻は一八九三年から始まっています。エンゲルスの活動の中心は『資本論』二、三巻の「仕上げ」です。悪戦苦闘の様がつづられます。彼のもとには援助を乞う同志、出版で一儲けしたいとする山師から毎日、山のように手紙が送られてきます。それら一つひとつに丁寧に戻信しているのです。しかも、その手紙は英語、仏語、伊語、スペイン語、ロシア語、ブルガリア語で書かれています。当時の知識人にラテン語、あるいはギリシャ語は必読の語学ですから、エンゲルス、マルクスは十ヶ国語をあやつっていたのです。

インターナショナルなヨーロッパと島国日本の違いかもしれません。

本誌の読者に『マル・エン全集』お持ちの方は少なくないはずです。お読みになつてはいかがでしょうか。

（滝野 忠）

## 一〇四七名問題と安全を一つに

―「ノーモアＪＲ尼崎事故」で集会―

この集会は、一〇七名の犠牲者と五五五名の負傷者を出し、ＪＲ史上最大の大惨事となった昨年四月二五日のＪＲ福知山線の脱線・転覆事故から一年を迎えるこの時期に、昨年から相次いで発生したＪＲ福知山線・羽越線のＪＲ死傷事故やアスベスト問題、マンシヨン耐震偽装事件問題など、生命が奪われ安全が脅かされている現状を企業の利益追求優先の結果であるにとらえ、規制緩和・民営化を問う「ノーモアＪＲ尼崎実行委員会」が結成され準備したものです。イギリス・フランス・韓国の鉄道労働組合の代表を招いての前日の「国際シンポジウム」と連続した取り組みの一環として開催されたものでした。

オープニングは、わが武庫川ユニオン音楽隊が今日の集会のために準備した「翼をください」のさわやかな歌声で幕を明けた後、昨年の事故で亡くなられた一〇七名の犠牲者に黙祷を捧げました。

主催者代表の酒井尼崎地区労議長は、ＪＲの相次ぐ事故は、「分割・民営」化の失敗を明らかにした。立山学氏の「ＪＲの安全軽視の黒字経営は、オリンピックで言えばドーピングであり、ＪＲ会社は失格にすべきだ」を紹介し、闘う国鉄労働者一〇四七名の闘いもこれからが本番である。一〇四七名の解決なしにＪＲの安全はない。安全を求める世論の力と労働運動再生の二つの力が必要である。ノーモアＪＲ尼崎事故の運動を広げようと基調提案しました。

遺族からは、遺族は事故原因を知りたいと願うが、ＪＲ会社は教えない。ＪＲ会社は何も変わっていない、とメッセーじが紹介されました。

各国からは共通して、民営化・新自由主義路線に対して闘おうと連帯の挨拶が熱く述べられました。

ＪＲ西日本で働く国労の有田さんは、事故後会社は「風通しのいい職場」に変えるというが大事な問題が抜けている。①あらゆる鉄道職場で人減らしは続いている、②現場は下請化・契約社員が増加している、③「命令と服従」の体質は変わっていない、ことの三点を強調し、世界的規模で繰り広げられている新自由主義路線の攻撃に対しては、世界中で闘い続けている事が昨日からの交流で明らかになった。一〇四七名問題は必ず勝利しなければならぬ。今こそ「安全なくして労働なし」「抵抗なくして安全なし」のスローガンで世界中の大企業と闘い続けましょう、と報告し決意表明しました。

尼崎労働者安全衛生センターの飯田さんは、アスベスト問題を取り組んだ経験から加害者企業クボタとの交渉を通じ情報開示されてきたことを報告し、「ＪＲ会社は、情報を公開しない・市民と話しをしない」体質がある。今回の事故の全容を公開する事が犠牲者に対する哀悼であるし、今後事故を起こさないということに繋がる、と訴えた。

最後に、尼崎事故を胸に刻み、世界の労働者・市民と連帯して、新自由主義に立ち向かい、命と安全を守る闘いを燎原の火のごとく燃え上がらせることを宣言する、集会

アピールを参加者全員で確認し、団結ガンバローのあと「規制緩和NO」「いのちを守れ」と脱線事故現場までデモ行進し、犠牲者に献花しました。(武庫川ユニオン)

## 一年で十二人中一人がやめていく

——ナイチンゲール精神の看護師がなぜ——

すべての産業、業種にたずさわる労働者と同じように、医療に働く労働者にも苦難が襲い来たっている。医療は福祉の最先端にある。資本の論理が否定される業種とは思わないが、資本の論理から「超越」した政策が実施されなければならぬ分野だ。

現実には「医は仁術」でなく、「金儲けの手段」とされてしまった。我が母が重度の脳梗そくで、救急病院に運び込まれ、三ヶ月余の治療時——その時、母はまだ人事不省であった——主治医は、「これ以上、我が病院ではめんどろをみれません」と、数字を示し転院をせまった。高齢化社会の今、だれもが経験していることと思う。

お医者さんはいばっている。看護婦さん——今は看護師さんです——は、一日二十四時間を駆けつづり回っていらっしやる。聞くところによれば大きな病院では月八日もの夜勤があるとのこと。看護師さんは大きな夢をもちながら、きつい労働に耐えられず次から次へとやめていく。母は病院、ついで療養型病院へ、そして特別老人養護ホームへと移り変わった。看護、介護にたずさわる労働者の多くは若く、はつらつとした女性たち。本当に素晴らしい人たちばかりなんですよね。

彼女らの仕事ぶりはじつに忙しいんです。僕がお世話になっている病院でも看護師さんたちはいつも駆け足。三年前、「ピロリ菌撲滅でどうなりました」と親しく声をかけてくださった看護師さんは今見ることはできません。お止めになったんでしょうか、それとも他の病院に移籍されたのでしょうか。

資本の論理が闊歩する今、病院は「仁術ではなく算術」へと様変わりしてしまいました。そうした中、ナイチンゲールの夢をもって医療の分野に就職した若い女性に悲劇が襲い来たっています。なんと、就職してから一年以内に十二人に一人が退職してしまうというのです。この結果、人員不足、医療ミス、医療事故の不安は解消できないというのです。

なぜ、夢、希望をもって看護師となった若い女性がやめるのでしょうか。医師は看護師に指示をする。医療は法律以上に日進月歩で進歩する。ベテラン看護師ですら追いついていくだけで精いっぱい。若い看護師を指導・教育する余裕はない。若者を育てるのは時間、余裕がなければ不可能なんですよね。今の資格試験はペーパー・テストだけで、実務はほとんど考慮されてはいない。どの職種でもそうだが、いきなり実務で責任をもたされてはやめる、やめたいになるのは当然のこと。その結果が十二人に一人がやめざるをえないとの実態である。

先輩看護師の気持ちは長く務めて欲しい。そのための教育をともにやりたいであろう。医療技術の革新は、忙しさの中、己の勉強へと向かう。新人を教育する時間は少ない。その結果が、「十分な指導ができなかった」七七・二一%、「指導どころではなかった」五七・三%である。この二つを足せば百分をはるかに超える。これは、医療だけでなく、すべての労働現場の実態である。

## 職場ですすむ仕事密度・精神的緊張の強化、 強まる民営化の流れ

三月七日、天理市文化センターで、「これでいいのか今の働かされ方―各職場の民営化の現状」をテーマに交流会を持った。問題意識は、多くの課題があるにもかかわらず運動が顕在化できないのはなぜか、運動・集会でのお客さんからどう自ら参加意識を持ってもらうかというもの。司会は草尾さん。一年の準備を経て、七名中四名で日教組の分会を立ち上げたと、最初に報告があった。稲葉代表の「今の職場での働かされ方はどうなっているのか。人事評価や能率（効率）が問題となっている。忙しくさせられ、教育基本法改悪などの政治反動に目を向ける余裕がない。その間に反動はどんどん進む」とのあいさつを受け、報告と交流に入った。職場からの報告として、「国鉄民営化」「郵政民営化」「給食民営化」「教育における人事評価制度」の四点が行われた。

一、国鉄民営化（JR） この春、愛知県蒲郡に中高一貫六年、全寮制、定員二〇〇名の海陽学園が開校した。学費年間三〇〇万円、親の年収は三割りが二千万円以上、エリート養成を目指している。この学園の設立委員に国鉄民営化（JR）三羽ガラスといわれた葛西JR東海社長がなっている。このことから、国鉄民営化（JR）の目指したものが一部のエリートとそれ以外の大衆に分けようとする一環であったことが分かる。

公務員攻撃も進んでいる。生首は切らないが職種転換が求められている。奈良医大も独立行政法人化され、看護師の事務職員化が予定されている。

民営化の行き着く先として起きたJR尼崎事故を告発する一周年集会在四月二二、二三日に現地尼崎で行われる。参加を。（報告は別稿）

二、郵政民営化 二〇〇七年一月一日に持株会社、郵便局会社（窓口会社）、郵便事業会社、貯金会社、保険会社の五つに分割・民営化される。窓口サービスは郵便局会社、集配・郵便内務は郵便事業会社に。

二〇〇七年九月三〇日に在職する職員は、一〇月一日に各会社の職員に承継されるとして、一応の雇用確保はされている。

どの会社に配属されるかは、二〇〇六年九月一日に担当する職種が基本となるが、各会社の定数があり、希望も聴取することになる。希望がかなわなかったときのために、苦情処理制度を作ろうとしている。職場では年休の扱い（計画休暇など）がどうなるのか話題になっている。

集配局の再編が提案され、四千六百ある集配局が田舎にある局（集配特定局）を中心に一千一百局に集約され、無集配局化が進む。当然、大幅な配転となる。人事評価では、冬の一時金で差が出ている。

三、給食民営化（民託化） 二〇〇七年度には県下全部で民託化ではないかと危惧している。宇陀市は民託化。給食職場には一〇年間ほど正職の採用はない。直営職場でも退職補充されるのは臨職やパート。極端な例は香芝市。香芝市では、かつて民営化を断念させたが、志都美小ではずっと正職の補充はなし。職員は再任用を含めて二人。あとはパート。休めない状態が続く、正職ばかり集めて、穴埋めできないところは民託化やむなしの声が正職の中から出ている。時代としては天然素材などが求められて

いるが、体がついていかない。

橿原市の給食職場で学習会を続けている。はじまりは民託をどう受け止めるかから始まった。かつては組合組織がしっかりしており、給食部会も月一回もたれて、そこで交流が行われていた。組合運動の停滞で給食部会はもたれず、学習会が唯一の交流の場になっている。

食器のプラスチックから磁器陶器への切り換えで、食器が重くなり指曲がり症が発症している。民託化で当局は献立は市の栄養士、食材は市の責任で調達、調理のみ民託と説明している。

交渉のみでは力関係の変化はない。調理員自身がつくるニュースを発行しかけていく。天理市の学校給食は二〇〇九年度に民託化が予定され、学校用務員の人材派遣会社への民託は〇六年四月に入る予定。

**四、教育職場の人事評価制度** 人事評価制度はなぜ出されてきたのか。これまで教員は「勤務評定」という制度はあったが、形骸化し、賃金への跳ね返りもなかった。それで「勤務評定」を廃して人事評価制度が出てきた。東京、広島、大阪では導入済み。目的は「子どものための資質向上、活性化」とされている。

制度の内容として、年度初めに目標設定をし、自己評価をする。その目標は校長の目標に合わせる。一号俸を四分割し、差を拡大させる。校長評価は絶対評価という建前（五段階に）。情報開示あり。教育委員会では五段階の相對評価。情報開示なし。四％加算で時間外も評価の対象となる。苦情処理制度を求めている。教育長は、混乱はあるかも分からないがやるしかないと言っており、管理職は学習会を開いている。

組合も何回か学習会を持った。その中では、「点数化をさせないでください」「一人で判断せずに話し合いを」「三」で出せばそのままになるのでは」「バラバラにされるのではないか」などの意見が出されている。

### このあと、交流

《二、郵政民営化》に対しては①現在の働かされ方をどう感じているか、②処分歴、所属組合などで差別は出ないのか、③会社が違う人たちが同じ所で働くことになるのか、④会社が分かれたときに組合の団結はどうなるのか、⑤集配特定局の統合について詳しくなどの意見が出された。

このうち①については、郵便物の誤配でも個人情報漏洩として処分が出されている。各事業とも営業成績や正確な仕事を求められ、精神的緊張は強く、労働強化につながった。人が増えないので、つつい仕事をやさすことを考えさせられる。

《三、給食民営化》に対して、①民営化で安全性やおいしさはどうなるのか、②幼児・児童にとって何か変わるのか、③住民、保護者を含めた運動づくりについて意見が出された。

このうち①について、安全性については委託会社も随分気を使っている。評判の良い栄養士のいる学校から委託になっている。作り手が大きく変わらないうちにもある。ただ食中毒の行政責任が不明確になってゆく。手のかかる給食（生タケノコ、泥の付

いた野菜など）が出にくくなる。まずは味になれてしまうこともあるが、大和高田市では保育士が食べないという実態もある。

《四、人事評価制度》に対して、①教頭、校長の評価はどうか、評価の会議の内容をオープンにすべきではないか、②子どもの評価と教員の評価との関連、③「起立」問題など服務規律違反は人事評価に反映するのか、④面談、授業管理など職場支配力の強化につながるのではなどの意見が出された。

このうち④について、これまで管理職のリーダーシップが言われてきたが、職場で押し返してきた。今回は教育委員会が強力に後押ししている。地域の目があるという理由だけで、権利の剥奪が進んでいる。言葉にたけた管理職が出てくるのではないか。短時間でしたが内容の濃い交流となりました。

## 労働運動再生への課題

— 〇六春闘 支払い能力論浸透 —

### 史上最高益の資本

独占企業はこの数年、儲けに儲け続けてきました。史上最高益を記録し続けていることにも明らかです。背景には国家の支援による三つの過剰—設備、債務、労働力—解消があります。国家がゼロ金利、税金投入、首切り法をつくり独占企業をバックアップしたのです。国家独占資本主義とは、国家と独占資本のゆ着・融合にほかなりません。情勢が変われば、国家と独占資本の協力・協調関係は現象的に姿を変えるのです。資本主義はシフトいんですよね。

中国「特需」、米国贸易赤字拡大が国際面の要因です。中国は六〇年代を前後に始まった日本の高度成長以上の「繁栄」をおう歌っています。中国は人口一三億人の巨大市場です。資本が吸血鬼のように活気付いている今、中国は矛盾逆巻く嵐の中にあります。社会主義時代の国营企業、人民公社は解体され、開発・工業化は都市と農村の対立、環境といった資本主義発展に内在する諸矛盾を表に出しています。自然発生的な抵抗はいつせきを越えるかわからない状況です。ぼう大な産業予備軍は移民の群れとなり世界にあふれ出ています。

資本主義は一九九〇年前後のソ連・東欧社会主義崩壊で、世界市場を再び包摂したことに、かつてない成長に活気づいています。その反映が日本独占資本の「復活」です。日本の労働組合の中心勢力は「企業の発展なくして労働組合は存在しない」とまで発言し、労組依存のために資本以上に「合理化」、生産性向上運動に力を注ぐまでに墮落（だらく）してしまいました。

### こんな時こそストライキ

〇六年春闘におけるわずかばかりの「賃金改善」、労働者にとって当たり前の均等待遇、不安定雇用労働者の正社員化は、労働組合ならストライキでたたかいたのが正道です。こんな時こそストライキは大きな力を発揮するんです。世界の独占企業の競争は激しいけれどもどの企業も儲けに儲け、市場を奪われたくないからです。

連合は資本とともに生きることが資本に助けられつくられたナショナルセンターです。連合に反対し総評を分裂しつくられた全労連も今や連合とちつとも変わりません。前者は「労働者を中心とする福祉型社会」建設、後者は「もう一つの日本」をスローガンとし、具体的には「ワーク・ルール」、そして「ルールある資本主義」を唱えるのですから。

日本労働運動は負けぐせがついた連合、全労連、そしてかつての総評労働運動時代の夢を追う、先輩たちの思いとはまったく違った情勢に入っているということです。

労働運動再生は二十、三十代の若者の行動に負っている、そう思いになりませんか。今の若者は政府・資本の宣伝どおりに行動しています。若者の意識は政府・資本・マスコミ、さらには管理統制された教育現場、あまりにも速い技術革新で本質を考えることを忘れさせられてしまった親たちによってもつくられています。

若者たちが今のままで永久に変わらないという保証はなにも一つありません。かならず考え、行動し始めます。それには最近のフランスの若者の行動に明らかですし、しやく熱の溶鉱炉・中国は資本主義が生み出す矛盾があふれ出しています。中国に大きな変化は必ずおこります。その時、世界は新たな情勢へと突き進むのです。現代情勢の特徴は資本主義という制度への不安、不満が沸き立つ前兆、新たな社会体制への模索が始まったことにあります。

### 「もらう」でいいの

三月十五日、「集中決戦」という言葉ばかり踊り狂うJIC回答について連合会長、事務局長の記者会見がおこなわれました。前年までの記者会見とは大いに異なり、テレビ・カメラが「砲列」をつくり、若い記者たちで会場は熱気ムンムンでした。久しぶりの賃上げ要求とその回答への連合首脳の評価やいかんというわけです。

連合会長は①難しい交渉下ようがんばった、②いわゆる真水分を出してくれた経営側の対応に敬意を表したい、③評価を問う記者の質問に、若干の減点ふくめ八十点、さらに④労組に横並び（一律べア）を禁じておいて、結果は資本の「横ニラミ」となったと少しばかりの不満を表明してみせました。しかし、賃上げという労使のもっとも鋭いたたかいが始まったさなか、JIC回答後、中小のたたかいは始まるんですねー結果について「もらう、もつともらうていい」、「経営者に敬意」との発言には力が脱げる思いをさせられました。

賃金・労働条件は労・資の激しいブツカリ合いの中、「取る」もの、もつといえ「闘い取る」ものですよね。ストライキという労働者の権利と力を対置もしないで、「想像をこえた難しい交渉になった」ですって。「不満な場合はストライキ」、「資本に圧力をかけるためには時前ストも」といった、ドイツの労働組合の「たたかい方」とは月とスツポン、天と地ほどの違いです。ドイツ「春闘」は時限スト実施の圧力のもと四月後半三%（要求は五%賃上げ）、一時金三二〇ユーロで合意しています。

連合、その中心のJICは資本によつてつくられた組合です。高木会長の出身労組UIゼンセン同盟は生産性向上運動にもっとも熱心な組合です。「合理化には全面協力します、その見返りお願いします」が本音です。資本にとつて、連合は「幽霊」「枯

れ尾花」でしかありません。したがって、「久しぶりの賃上げ春闘」とマスコミが持ち上げてみせた〇六春闘は、これほど闘う条件がありながらシェイクスピアの『真夏の夜の夢』のような結果に終わったのです。

### おずおずと「賃金改善」

J C 回答の諸結果と特徴について考えてみましょう。

株主総会を前に上場企業の〇五年度決算が報じられています。どこもかしこも史上最高益にわき立っています。日本最大の独占企業トヨタは売上高二一・三兆円、そのトヨタでの賃上げはたった一千円にすぎません。トヨタ労働者の数は六万四千人です。千円の賃上げは年間で一人当たり一万二千円。トヨタにとって賃金コストの負担分は一万二千円×六・四万人のたったの七・六億円にすぎません。営業利益一・八兆円に比すれば七・六億円割ることの一・八兆円ですから、わずか〇・〇〇〇四、〇・四%でしかありません。資本の姿はなんと大きく、労働者・労働組合はなんとみじめで小さく見えることでしょう。

定昇分をふくめた賃上げ（一千円十六千九百円七千九百円）コストは、したがって九万四千八百円カケル六万四千人イコール六〇・六七億円でしかありません。営業利益にたいする比率は〇・〇〇三三、これまた〇・三%にすぎません。問題はなんでこんな結果でしかないのに「久さしぶりの賃上げ」「ようもらえた」との評価が当たり前になってしまったのか、その原因についてです。

第一、J C、そして会長組合のU I センセン同盟は生産性向上（「合理化」推進）まっしぐらの組合です。「資本・会社存続のため労組は全力をつくし会社に協力します。協力の結果を配分してください」というわけです。この十年余、連合傘下の主要組合は「組合員に会社に協力しろ」と、尻をたたきつけてきました。その結果、電機では二十五万人、新日鉄では四万五千人もの人減らしがおこなわれ、企業は再建されました。儲けに儲ける企業、そして賃金は切り下げられ、労働条件も悪化の一途、重大災害の激増で不安いっぱいの労働者生活。その矛盾「解消」をめざし、今や連合の路線となった「生産性三原則」実現をせまったのが今春闘最大の特徴です。

第二、生産性向上にもとづく賃上げは企業の支払い能力論となります。連合は統一要求基準を示さず、企業労組の集まりである産業別組合に労働条件にかかわる事項が託されます。産業別組合はたて前上、「統一方針」を示します。しかし、企業の支払い能力を「前提」とした要求ですから、交渉、そして回答はバラバラにならざるを得ませんよね。

第三、今春闘ではベアからわかったようできっぱりわからない「賃金改善」要求へと、要求の仕方も変えられてしまいました。実務とは無縁な私にとって「ベア」と「賃金改善」の違いの理解は困難です。でも、ベアが賃金表全体の書き換えで資本の賃金負担が増えること、賃金改善とやらでは資本にとって「改善」分の原資を資本の搾取につごういように配分できることが最大の特徴となります。

これを誰にも分かる仕方で示したのが電機連合のシャープです。電機は二千円を要求しました。しかし、回答はバラバラ。統一要求・闘争の呈をなしませんでした。シ

ヤーブの賃上げは五百円。しかし賃上げ対象者は三十五歳のみとの衝撃的事件です。第四、JCは「春闘」との言葉を使ってはおりません。正確には「春季総合生活改善闘争」を主張します。ベア要求、統一要求基準に彼らは反対し、かつての総評労働運動に対抗したのです。ですから、彼らの頭にはベア要求などはじめからありません。せいぜい賃金改善なんですよ。ですから、ベアから「賃金改善」への移行は彼らにとつては当然のこととなります。

電機連合は「総合労働条件改善闘争」の柱として、①「賃金改善」要求、②一時金、③産業内格差改善、④労働協約改善―総労働時間短縮と柔軟な働き方、次世代育成支援・仕事と家庭の両立支援、⑤政策制度改善―労働政策等の五つを掲げています。

「賃金改善」の根拠には①実質賃金維持向上、②国民経済の成長性、③賃金の社会性、④産業・企業業績の成果反映の四つが上げられます。一言でいえば生産性賃金論です。ですから、経団連は春季労使交渉への基本に①自社の支払い能力による賃金決定、②総額人件費、③中長期的見通しに立った経営判断、④短期的な業績は賞与・一時金、⑤企業内の幅広い課題での協議を掲げ、「春季労使交渉」について「定期的に情報を共有し、意見交換をはかる場」として、労資の一層の協力・協働体制をつくりたいとします。

### 「根拠地」残し新たにつくる

今春闘の最大の特徴は、すでに述べたように組合員より経営者にも分かりよいJCのダラ幹どもも、ちよびり賃上げ要請をしてみせねばならなくなったことです。企業は労働組合・労働組合員の生産性向上協力で儲けに儲けました。しかし、労働者には窮乏化が押し寄せるばかり。労働組合員からはもちろんダラ幹どもからも、「生産性向上への見返り」を要求する悲鳴もウメキともつかぬ声がわきおこります。連合の基本政策は「生産性三原則」の実現です。「生産性三原則」否定は労働組合否定にもつながりかねません。

彼らには「ストライキで」との発想はありません。ですから、スト権もたてず「労使交渉で」となります。JCがいっせいに「労使交渉」にとりかかり、ある日集中して回答を「もらう」ことが「集中決戦」と表現されるわけです。

賃金回答はバラバラです。ささやかな要求が満額実現したところ、ささやかな要求ですら値切られたところ、ゼロ回答のところ、さらに同じ産業内でも企業業績によつて差がつけられるといったようになります。これらが示すところは支払い能力論による賃金決定が定着したことです。

春闘再生、賃金・労働条件の向上を柱とする労働運動再生は、組合員が怒り、ダラ幹どもを突き上げる行動が巻き起こることなくして不可能です。少しばかりの「賃上げ」は社会的な搾取にすぐにもっていかれてしまいます。今春闘は生産性三原則の破たんという労資対立の激化で、労働運動の条件がつけられたことが特徴でもあります。資本と賃労働の矛盾は絶対的です。立ち上がらないではいられない状況に追い込まれていきます。その日のために根拠地残し、新たにつくることが重要です。根拠地を守り抜き、新たにつくる、それが労働運動再生の根本です。

(編集部)

# 原告団の闘いと今後の展開

— 国鉄闘争の現状 —

現在、原告団中央協議会副代表と北海道協議会代表、そして闘争団全国連絡協議会の副議長をしている。勿論、本籍は「原告団」ということ、ハッキリさせての任務配置である。

## 問われる原告団の戦略と腹固め

「解決のためには大同団結を！」について、あくまで私個人の問題意識だが、原告団が中心に座らなければ解決しない闘いであり、大同団結もその点を腹に据えて考えなければならぬ。

一方、相手（鉄道運輸機構、関係省庁）は、「いろいろ言っても本当にまとまることが出来るのか？」と見ている。一〇四七名がまとまったということ、二・一六、四・四集会を開催できたが、まだ信じてはいないだろう。この間の申し入れで国交省鉄道局は、要求や当該労組を引き合いにだし、「まとまりは維持できない」と言わんばかりの指摘をしている。積極的に分断を持ち込むことの裏返しの意味として受け止めるべきだ。改めて原告団の戦略と腹が問われている。

四月二十一、二十二日と原告団オルグ（九州・北海道）が実施される。オルグ者は二瓶議長と加藤主任弁護士で、一つの節目を迎え、改めて、闘いの到達点（情勢）と今後の展開、控訴審の現状と見通しについての報告と提起がされるだろう。原告は、今から五月にかけてしつかり議論し合い、腹固めをしなければならぬと考えている。実際、五月中旬以降は、アルバイトが本格的に始動しだす時であり、生活対策というシビアな現実を頭において、各団は議論を進めることになる。厳しくても避けられない大切な議論だけに実りあるものにしたいたいものだ。

四・四集会の評価について、私のところにも様々な声が寄せられている。一言で言つて、どちらからも不満の声である。つまり中途半端な集会だったということだ。ここにある種、私たち原告の弱点と問題点が凝縮されていると思う。

九・一五判決を武器に年内政治的解決の基本方針は変わらない。そうであるだけに前に向かった建設的な総括が大切だ。その際の視点は、一つは「原告が駄目と言えはそこで止まってしまう闘い」であり、二つは「原告が判断したら他は合わせるしかない闘い」と言うことだ。この点、原告自身がどこまで自覚できているか、である。私流に言わせれば、原告は九・一五判決で「野党から与党に変わった」と言うことであり、それだけに闘い（政治的解決）の責任は重い。間違ってもどこかを批判して済む話ではない。原告団の主体性が闘いを大きく左右することを、改めてお互い自覚し合いたいと思っている。

## 年内解決を迫る主体的な闘いを

大同団結の枠組みとしては、「年内に政治的解決を！」で一致しているとなつてはいるが、特に年内に解決を迫るイメージ、闘いの組み立てが曖昧のまま。例えば、対

国労との関係云々ではなく、それこそ主体的かつ積極的に議論し、原告は文字どおり闘いの中軸を担わなければならない。いろいろあっても「まとまった」という動きをつくり出してきたのだから、本物にしなければならない。放っておくと分断が持ち込まれること、先に述べた通り。まとまる結集軸は腹をくくった原告以外になりようがないのだから。

原告団が腹をくくるとは、一つは「要求問題」がある。どうしたいのかハッキリしなければ何も始まらないからだ。遅ればせながら一〇四七連絡会として基本要求を鉄道運輸機構へ申し入れた(四月十四日)。

二つに、今から五月にかけて原告一人ひとりが具体的要求づくりに向けた議論を深めなければならない。それらを原告団としていつ頃まとめるのか、この段階で期日を具体的に示すことはできないが、温度差等組織状況を踏まえた丁寧な議論が必要だ。こればかりは当該以外決めようがない。誰かの責任にするわけにはいかない問題である。誤解のないように付け加えるが、単に要求を切り下げても解決はできない。今後、実しやかに飛び交う理屈だと思うが、本末転倒と言うものだ。そのレベルで何とかするのであれば、そもそも二十年もの闘いになっていない。相手とぶつかってみるとハッキリするだろう。いずれにしても一人ひとりが実感した中で決められていくもの。四党合意とは違う。

三つには、交渉団のイメージ、議論がある。最後は交渉力が解決水準を左右すると言うこと、今から原告は肝に命じておかなければならない。「力以上の解決はできない」と言うのが争議の鉄則である。「解決能力のあるところに解決を迫る」のも争議の鉄則だが、私たちの闘いで言えば、政府・自民党(公明)だ。その点、頭に置きつつ具体的政治対策では、民主党をはじめ全野党への協力要請の作業が進んでいる。最後まで妨害するのは官僚ということも、二〇二億円損賠問題和解解決の教訓。仮に官僚主導で進めば精々八十万円?だが、原告は闘って確定していかないとは言え判決の五百万円と、その差は歴然としている。

四つには、政治解決を意識した大衆行動が必要である。何をすることが、どんなことに繋がっているのか実感できる行動でなければならない。そうでないと原告も家族も元氣にならない。では、大衆行動で何を求めていくのかだが、これからの大衆行動は「交渉テーブルを設置せよ」に集中すべきである。そのためには関係省庁に対し波状的な要請・抗議行動が重要。特に五から六月は継続しなければならない。相手が顔も見たくないと言わず、くらい知恵と金を使ってバラエティーに富んだ闘いとすべきだ。

五つには、原告団が頑張るだけでは駄目。未提訴者と言われる闘争団が訴訟に踏み切ることが、何より年内政治的解決の勢いをつくり出す。

国労は七月大会で判断と言い続けている。三月末、四月始めと国労、弁護団、中央共闘会議と議論する機会があったが、いずれも裁判をする前提で訴訟内容についての議論であった。私は「年内政治的解決を本気で考えているのであれば、国労は七月大会と言ってないで早く裁判の決断をすべき」と主張した。運動論から言っても、大同団結の質を高め(名実共に足並みを揃える)闘い全体に勢いをつけるには、極めて常識的な判断だと思っっている。それぞれの立場からも「政治的解決促進のための裁判」

を国労に迫っていたきたい。

常識的に考えても、争い事のないところに和解などありえない。裁判は社会的にその争い事を担保することでもある。争議の当事者は誰かの問題も出てくる。手前味噌で当該を主張しても認めるほど甘い相手ではない。争議の解決は具体的かつ現実的なものだ。何を根拠に要求を主張するというのか、相手にされなくても文句が言えない危うい立場は、この場面、絶対禁物だ。改めて、国労本部の指導と決断、当該の決断を強く求めたい。

### 闘いの節々に目標を

最後に、年内政治的解決を迫るには残り八ヶ月となった。まだまだ問題を抱えた大同団結だが、その枠組みはできたとと思う。今後は、いかに内容を充実させていくかが、闘いの節々で考えると六月国会会期末、七月国労大会、九月自民党総裁選、十二月時効と残された時間はシビアだ。それぞれ目標を設定し、いかなる事態にも対応できる主体性の確立が大前提だが、五から六月の闘いが以降を大きく左右すると言つて過言ではない。

すべての関係者は「小異を捨て大同団結を！」とした意味と実践を、九・一五判決後の経過と努力を踏まえ、今一度噛み締めたものである。(金児 順一)

### ◇ 読者からのおたより ◇

「日の丸」愛国者 「王ジャパン・世界一」で騒いだマスコミと観客。WBCでのイチローの振る舞いが話題になった。韓国チームに対する言葉が韓国ファンのブーイングの原因となった。米国で実績を上げているこの人物が強い国家主義的「日の丸愛国者」であることも分かった。(茨城・H)

編集部より 「進化する」イチロー君。「日の丸の愛国者」への進化でもあった。

「ならし出勤」制度 メンタルヘルス対策で「ならし出勤」制度が実施されることとなった。病気休暇または休職中の職員の職場復帰を支援するため、希望する職員に対し実施。進め方は職員の意向を踏まえ主治医、所属が十分連携し、健康管理担当者の助言、指導を導き受け、職員一人ひとりに適した進め方をする。(新聞ひょうご県職)

編集部より 行く所どころで滝野さん、また一人でした。これで四人めだとメンタル問題を聞かされます。そろそろ事後対策でなく、なくす闘いが必要。

学習講演会 「4・16学習講演会」に際しまして、たいへんご協力いただきありがとうございます。参加者は一五一名でした。新しい団体、個人とのつながりも、少しづつ出来てきつつあり、今まで以上に広がりをつくる事が出来ました。また、賛同実行委員は、一六〇名でした。声をかければもつともつと増えると思われれます。今後、主体性を強化して、広がりをつくるため、諸活動を進めたいと思っています。都合で、ご参加いただけなかったみなさまに、当日の資料を送付させていただきます。全体的な総括につきましては、五月九日にする予定です。(事務局長・福本道春)

編集部より ご盛会おめでとう。これを契機に学習強化。資料たいへん面白く読ませていただきました。感謝。

「共謀罪」集まることすら罪になる… 住民と団体(組織)を監視・弾圧する法令が次々と制定・準備されています。「盗聴法」・「有罪法制」・「国民保護法制」・「住基ネット」・「生活安全条例」etc。「共謀罪」は、六一五の摘要犯罪をもうけて団体・組織・個人を徹底的に監視・弾圧します。これらが成立した社会はどのような社会となってしまうのでしょうか。犯罪を取締、検査するのは警察。防犯カメラや住民監視が徹底した社会では、そうした人々の会合や会話が警察の捜査の対象となり、盗聴やスパイなどの闇の捜査へと拡大していく可能性を持っています。警察の権限が拡大していくとき、まさに、警察が国民全体を監視する警察国家が生み出されることになり

ます。有事法制と「国民保護法制」が制定され国民が戦争体制に組み込まれ、更に「共謀罪」が成立した社会は、他人を信用できない人間不信の陰湿な相互監視社会・警察国家になる可能性があるのです。労働組合や市民団体は、存在すら否定される社会が目の前に迫っています。これは第二次世界大戦前の「治安維持法」の現代版です。

(大分・O)

編集部より 国家論を学び直すことが重要なんです。エンゲルスの『家族・私有財産・国家の起源』さらにはレーニンの『国家と革命』に眼をとおして。

面白かった 四月一五日、「鉄建公団訴訟原告団・家族を守る会支援東京会議」は第三回総会をおこなった。メイン・ゲスト（講演者）は、音威子府闘争団団長で原告団、連絡会、北海道で活躍される金児順一さん。彼は自分の問題意識を披瀝されました。おもしろかった。

(東京・T)

編集部より 左派戦線は縮んでいます。まず若者の姿が見られませんが、若者をひきつけるためにどうするか。説教でなく、己の問題意識を語ることですよね。金児報告も掲載させてもらいました。

「2ネット方式」 四月の人事異動、課長代理で「2ネット方式」実施局に異動した知り合いが、一ヶ月もしないのに職場で倒れ、入院、手術をした。腸に穴が開いたそう。だ。「2ネット方式」が導入され、毎日職場は混乱、課長代理は勤務時間も関係なく仕事をし、夜中の一二時を過ぎることも度々だったそう。今、課長代理の間では「2ネット方式」が導入されている局に異動することだけは避けたいとの話が蔓延している。大変なのは課長代理だけではない。現場は大混乱、そのしわ寄せはすべてにかかっている。このような実態にもかかわらず、「2ネット方式」は今年度、全局実施となっている。議論を深め、問題点を明らかにしていかなければならない。

(東京・Y)

編集部より 「2ネット方式」ってなんですか。もつと具体的にお書きいただければ、多くの労働者に共感を得られると思います。

新人 今週から新採用者が詰所に来ている。頭に詰め込んでいるところ。ワクワク、ドキドキもする。働く中で自分のしたい事を職業にする、いいですよ。今は、毎日緊張があると思います。その中で仕事を覚える、この事に全エネルギーを使つてほしい。それから、いろいろな意見が飛び交えば、職場も良くなるはず。

(M)

編集部より ナース職はたいへんなよう。今年になって三回も話を聞きました。十二人に一人が三ヶ月でやめていくって！

ステッカー闘争 札幌では連日、春闘交渉が続けられているが、さつぱり前進しない。とうとう「ステッカー闘争」に突入した。三階管理棟に遠慮がちに数枚ステッカーが貼られています。気がつきましたか？ いや、ステッカー貼るなんて何年ぶりでしょうか。他の支部では六十枚貼ったとか、十三人が動員で出てきたとかの報告もありました。だって、看護部の班長・主任の間では、ステッカー・腕章、時間外拒否、ストもあるからね、とスタッフに言つてるとかの話を聞きました。期待されてるんだわそれにしても昔を思い出しますね。みんなでワイワイ言いながらステッカー書いて、貼つて、最後は明け呑んで。楽しかったな。

(みんな)

編集部より 大衆運動ですね。若者が労働運動の楽しさが伝わればそれだけで嬉しい。若者が増え活気 茨城ユニオン取手ドライブスクール（TDS）分会の花見会が四月二日、牛久シャトーで開催されました。昨年はまだ桜の花もちらほら程度でしたが、今年はきれいに咲き競い、花見を満喫できました。そして、TDS分会の発展を反映して、今年は昨年を大幅に上回る分会員が参加し、特に若い組合員の姿が目立ちました。おいしいバーベキューを食べながら、ビールをたらふく飲みながら、にぎやかに楽しく懇親を進める中で、新たに三人の若者が組合参加を申し込むなど、発展する勢いを示す場ともなりました。

(TDS会)

編集部より いい話です。とにかく若者と対話しなくちゃ。中年・老年は「埋草捨石」にな

れたでしょうが、社会をつくりだす力になれませんもの。したたかな資本 JR西日本の日勤教育の実態とかどうなっているのかな。マスコミが取り上げた事で問題化しましたが。教育の名の見せしめだね。学校教育の荒廃なんて云えないよ。大人たちがこのザマなんだからね。有力私鉄との路線競合下での競争の実態が否定出来ないだろう。それから、神戸大震災後の労使間の意識も問題点を拡大したのでないかな。復旧や再建に名を借りた大きな合理化を許してしまつた。この辺に、JR西日本の現状があるように思う。考えれば、私鉄総連の集団交渉に終止符をうつ結果にもなつた。資本のしたたかさには武装しきれなかったね。

(A)

編集部より 労務管理は往年の比ではありません。すさまじい一言。さらに、集団的労働がM

E・ITで一人独立業務へと変えられている。